

原子力規制委員会国立研究開発法人審議会
第18回量子科学技術研究開発機構部会
議事録

1. 日時：令和5年8月1日（火）14：00～14：45

2. 場所：原子力規制委員会 13階 BCD会議室

3. 出席者

委員（50音順）

大友 康裕	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター 病院長
細谷 紀子	国立大学法人東京大学大学院医学研究科 疾患生命工学センター 放射線分子医学部門 准教授
横山 須美	国立大学法人長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授

原子力規制庁

新田 晃	放射線防護企画課 課長
辰巳 秀爾	放射線防護企画課 企画官
齋藤 朗	放射線防護企画課 課長補佐
高橋 知之	放射線・廃棄物研究部門 統括

議事

○新田課長 定刻になりましたので、これより第18回国立研究開発法人審議会量子科学技術研究開発機構部会を開催いたします。

事務局を務めます、放射線防護企画課長の新田でございます。どうぞよろしくお願ひします。

なお、本日の会議はインターネットでも中継、公開しております。定足数でございますが、本日は3名全ての委員にご出席いただいておりますので、定足数を満たしております。本会議では、お手元の議事次第のとおり、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構の令和4

年度業務実績に関する評価案及び第1期中長期目標期間業務実績に関する評価案、いずれも原子力規制委員会共管部分について審議会の意見を取りまとめでいただきたいと考えております。配布資料は、議事次第に従い、資料1から2、参考資料1から2をご用意しております。議事次第にある資料でお手元がないものがございましたら、事務局までお申し付けください。

事務局からは以上でございます。

それでは、議事進行を横山部会長にお願いいたします。

○横山部会長 ありがとうございます。

それでは、議事に従いまして進めてまいりたいと思います。

まず、議題1になりますけれども、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構令和4年度業務実績に関する評価について、原子力規制委員会共管部分について審議を行います。

前回になりますが、7月5日の部会でQSTからヒアリングを行いました。その後、私を含め各委員から意見を事務局に送ったところです。これも踏まえまして事務局で二つの種類を用意していただきました。各委員の意見を機械的にまとめたものが参考資料となります。そして、それをもとに事務局で評価案として取りまとめたものが資料1となります。本日は資料1について審議し、部会の評価として取りまとめを行っていきたいと思います。評価項目ごとに事務局から説明をしてもらい、審議していくことにしたいと思いますが、委員の皆様、いかがでしょうか。

(異議なし)

○横山部会長 ありがとうございます。

それでは、評価項目ごとに確認していきたいと思います。

評価項目4について、事務局よりご説明をお願いします。

○新田課長 事務局の放射線防護企画課長の新田です。

それでは、資料1の1、評価項目4についてご説明いたします。

この資料につきましては、今、部会長からもお話ありましたように参考資料1に委員の意見を記載しておりますけれども、この中から抜粋してといいますか、なるべく委員の意見を取り上げるようにして、事務局のほうでまとめさせていただきました。また、項目が多い場合は、複数の委員からの意見をまとめるような形で整理させていただいておるものになっております。

評価項目4ですけれども、評価すべき実績のところでございます。この評価項目、放射線

影響と被ばく医療と、それぞれの研究がテーマになっておりますので、それぞれの研究テーマごとに実績等をまとめております。

放射線影響研究につきましては、記載のとおり、放射線がんリスクの修飾効果を記述する数学的モデルの提示とか、放射線特異的なゲノム欠失変異や遺伝子の特定変異ががんに感受性を示すことの発見等顕著な成果を上げた。QSTの若手・中堅の研究者が、ICRP関連会合に積極的に参画した、これらの成果について情報提供を行ったこと、そして、宇宙放射線の重粒子成分を低減化する遮蔽法を発案と、将来の深宇宙有人探索の向上に貢献するための基盤を構築したこと、こういったことを顕著な成果を上げていると評価するというふうにしております。

被ばく医療研究につきましては、アクチニドバイオアッセイ手法の迅速化による大幅な前処理時間の短縮、超高感度ICPの質量分析法の高精度化、そして、バイオアッセイに関する国際相互試験において、分析でトップラボラトリーに選定されること、また平面カテキンのがん細胞傷害作用、そういった項目を上げております。

今後の課題・改善事項等につきましては、各委員からいただいた意見のうち、実績として認められるということよりもむしろ課題といったところに整理の形で整理させていただいております。

最初のところですが、今後は、基礎研究の成果をヒトにおける防護策、被ばく医療へどう橋渡ししていくのが課題でありまして、この分野をリードしていくことが期待される。

研究成果を個別に内容確認すれば、「顕著な成果」と「国際的に高い水準を達成し、講評されている」と判断することが可能であるものの、一目で判断出来るような提示の工夫が必要と考える。Top 10%論文数の場合、数が多くなくて、むしろマイナスのイメージを与える。

宇宙放射線被ばく低減材の開発については、軽量化等も考慮した宇宙船材料としての実装化につながる取組に期待する。バイオアッセイ手法に関する成果は基幹高度被ばく医療支援センターの能力を向上するものとなることを期待するとしております。

最後のところですが、参考資料1にありますように、委員からの意見では、バイオアッセイ手法につきまして、高度被ばく医療支援センター等との連携した研究に期待するというふうに記載いただいておりますが、実際的にはその高度被ばく医療支援センターでバイオアッセイについて対応できるところ、全てのところができるわけでもなく、基幹高度被ばく医療支援センターでQST中心に取り組んでおるものですから、基幹

高度被ばく医療支援センターとして取り組んでほしいというような形でここはちょっと修正させていただいております。

評価項目については以上です。

○横山部会長 ありがとうございます。

それでは、委員の先生方からご質問、ご意見あれば、お願いします。

ご自分の書かれたものが記載されていないとか漏れがあるというような場合はおっしゃっていただいて結構かと思いますが、いかがでしょうか。

○横山部会長 ありがとうございます。

○細谷委員 私の意見につきましては、評価すべき実績のところの放射線影響研究、被ばく医療研究、それぞれにつきまして全て網羅して書いていただいておりますし、今後の課題もきちんと記載してありましたので、特に異存はございません。

○横山部会長 ありがとうございます。

○大友委員 私のほうも適切にまとめていただいたと思います。QSTから本当に丁寧な説明と、それから、その詳細な報告書を作っていただいて、それ拝見して非常に顕著な成果が上がっているというふうに認識できましたけれども、実際にそれが明確に伝わるようにするべきかなということで、このTop 10%論文数の報告はむしろ工夫したほうがいいのかというふうに思いましたので、その辺りを指摘させていただきました。よろしく願いいたします。

○横山部会長 ありがとうございます。

この辺は、よりその成果が見えるような形でということですので、悪いほうにというわけではなく、工夫してほしいということかと思えます。

私のほうから挙げさせていただいたものも網羅していただきました。先ほど、今後の課題・改善事項等のところでバイオアッセイに関することを申し上げたんですけれども、こちらのほうの修正案でよろしいかと思っております。

それから、今後の課題につきまして、ヒトにおける放射線防護及び被ばく医療へどのように橋渡ししていくのかというのは、非常にもう昔から長い間、課題となっていることで一足飛びに進むものとは思えないんですけれども、今期におきましてQSTのほうでもこれを課題と挙げておりますので、こちらのほう、ぜひ進めていただければと思います。

以上になります。

よろしいでしょうか。

○新田課長 事務局の放射線防護企画課長の新田です。

コメントありがとうございます。ちょっと補足説明ですけれども、この取りまとめのうちの今後の課題・改善事項等につきましては、主務大臣からQSTのほうにお伝えする形になりますけれども、それを次年度の自己評価、実績評価のほうに、それぞれの課題にどう対応したかというのを記載するような形になってございますので、大友委員からご指摘ありましたそういったことを踏まえて対応というのを期待したいというふうに考えています。

○横山部会長 ありがとうございます。

それではよろしいですかね、次の評価項目に移ります。評価項目7について事務局からご説明をお願いします。

○新田課長 放射線防護企画課の新田です。

資料1の2ページの2、評価項目No. 7でございます。補助評定三つありますけど全てまとめて説明します。

ちょっと先ほど説明忘れていたのですけれども、最初のところ、この評価項目7全体としてA評定とするというふうな形でまとめております。

補助評定の最初のところですね、公的研究機関として担うべき機能。原子力災害対策・放射線防護等における中核機関としての機能ですけれども、こちらも補助評定をa評定としております。

評価すべき実績でありますけれども、「被ばく医療診療手引き」を完成させて、また要望に応じて、増刷、配布したことなどについて評価しているということでございます。

2つ目のところでは、協力協定病院との合同訓練の実施で、被ばく事故対応能力の向上に貢献したことを記載しております。

3点目でございますけれども、基幹高度被ばく医療センターとして、5つの高度被ばく医療支援センター間の連携会議を開催、そして、研修部会を通じて研修の改善に取り組んだことを記載しております。また、補助金事業の人材育成プログラムにおいて、ほかのセンターでの研修受講を開始するなど、国全体の人材育成への貢献に繋がる成果があったといったところが、これ、基幹高度被ばく医療支援センターの人材育成の取り組みとして記載をしたほうが重要なことが反映できるという形で記載させていただいています。

4点目、自然起源放射性物質（NORM）の調査を行い、結果を放射線審議会に報告し、審議に貢献したとさせていただいております。こちら、いただいた意見の中では、このNORMのところ、このNORMの調査をして、その成果を新たな規制基準の検討や法令化に資するというふ

うにいただいていますけれども、この規制基準の検討、法令化をどうするかというのは放射線審議会のマターですので、放射線審議会の役に立ったというふうな形でまとめさせていただきます。

今後の課題・改善事項ですけれども、高度被ばく医療支援センターとのさらなる連携強化・協力を期待する。また、より良い研修教材の提供を目指し、これまで作成・発刊したテキストの利用者、専門家の意見を聴取して、それを反映した定期的な手引きの見直しに期待する。

そして、今後も中核機関としての機能が持続的に果たせるよう、現在の人材の把握に留まらず、新たな人材が育成、輩出されるような取組を継続的に行うことを期待するとしております。

(2) の福島復興再生への貢献ですが、こちらも補助評定はaとしております。

評価すべき実績といたしましては、福島医科大とともに、事故直後の住民の避難行動情報を活用して、被ばく量の推定を行ったことは、顕著な成果であるとしております。

また、QST独自の高度分析法で、北西太平洋堆積物中のプルトニウムが事故由来でないことを世界で初めて示したことを上げているところでございます。今後の課題・改善事項ですけれども、福島復興再生についての特に優れた研究成果を出すことや、自治体・関連機関と連携することのみならず、社会への貢献が一般の方々にも伝わるよう、社会や地域住民に向けて、より積極的に発信していくことを期待したいとしております。

(3) の人材育成ですが、こちらも補助評定をa協定としています。

評価すべき実績といたしましては、QSTのリサーチアシスタント制度、こちらのほうで高い評価を得ているということで、効果の高い人材育成が実施されたというふうにしております。

また、eラーニングを活用しながら、研修回数増加、満足度も高いものといったことを記載しております。

今後の課題・改善事項ですけれども、放射線被ばく医療・防護分野の長期的な人材育成・受入れへ期待するとともに、リサーチアシスタントとして受け入れた研究者の当該分野への定着状況把握についても努めてほしいというふうにしております。また、QSTリサーチアシスタント制度により教育を受けた大学院生たちが、将来、この分野で能力を発揮し続けるよう、大学や関係機関とも連携して、多様なキャリアパスを創出いただけることを期待している。引き続き、研究者、医療人、技術者等、幅広い年代の人材育成と活用に期待するとい

うふうな形でしております。

以上でございます。

○横山部会長 ありがとうございます。

すみません、先ほどの評価単位4のほうですね、申し上げるのを忘れておりましたけれども委員の先生方は特に異論がないということですので、評価はAということにさせていただきたいと思います。

それでは、評価単位7のほうですけれども、委員の先生からご質問、ご意見ございましたらお願いします。

○細谷委員 細谷でございます。

私から既に提出させていただいた意見について、全ての項目に関してしっかりと取り入れていただきまして感謝申し上げたいと思います。

今後の課題で、特に私が強調いたしましたのは、中核機関としての人材の把握ということに加えて、今後絶えず新たな人材が育成されて輩出されるような取組を継続的に行っていただきたいという意味を込めて、「原子力災害への対策・放射線防護等における中核機関としての機能」と「人材育成」の両方の項目におきましてコメントを入れさせていただきました。その内容は余すところなく書いていただいたかと思っております。幅広い年代ということもきちんと残していただきまして、どうもありがとうございました。

以上でございます。

○横山部会長 ありがとうございます。

大友委員、いかがでしょうか。

○大友委員 私のほうからも拝見しましたがけれども、特に異存ございません。適切に整理いただいていると思います。

あと、やはり人材のところですがけれども、優秀な人材育成、優秀な方を人材育成されているけれども、それを修了した、そういう能力を獲得した後のその力を発揮する場所というのが十分でないという、これは必ずしもこの領域だけじゃなくて日本社会全体のことかもしれませんけれども、せっかく優秀な人材を育成したのであれば、その方々がしっかりと力を発揮して、またこの国のこの領域の発展に繋がるような、そういう機会をぜひつづけていただきたいというふうに思います。

○横山部会長 ありがとうございます。

この評価単位7では、原子力災害への対策と放射線防護における中核機関としての機能と

いうこと、それから福島復興への貢献、人材育成ということがテーマに挙がっておりまして、人材育成に関しましては、多分全ての委員が同じような思いを持っておると思います。これからどんどん少子化ということで若い世代が減っていく中、どうやってこの分野に残っていただくかということが大きな課題でありまして、QSTのみならず、大学、それから、それぞれの機関での努力というのは必要ですけれども、特にこの部会での意見といたしまして、このような取りまとめをさせていただいたということになります。

それから、私のほうから挙げさせていただいたことに関しましても全て入れ込んでいただいたかと思えます。先ほど、NORMの話、自然起源放射性物質の調査に関しましては、先ほど、事務局からもありましたように、放射線審議会での審議というか議論になることでありまして、規制や法令化に直ちに繋がるかというところではあるのですが、前身であります放医研の頃よりこういう自然放射性物質に関する環境挙動調査というのは、非常にQST、放医研の強いところではあったわけです。そういう部分、ぜひ今回のこのNORMの調査というのは単年度的な取扱、受託事業として取り扱われたようなものなんですけれども、ぜひ長期的な視点に立ってこのようなことというのはなかなか先ほども言いましたように規制とか法令に繋がることではないんですけれども、地道な非常に時間のかかるデータを整備するというには非常に時間のかかることでありますので、そのQSTの中でそれを評価する機能等を備えていただき、長期的な視点で研究を続けていただきたいという思いがあります。

それと、今後の課題といたしまして挙げさせていただいたもので、福島復興ということも非常に大きな点かと思えます。こちらのほうは多分、また中長期のほうの話とも絡んでくると思えますけれども、社会的な部分という、社会へのアプローチ、どうするかという、社会貢献ということを一一般の方々に伝えるというのをどうするかということに関しましても、ぜひその発信方法というのを考えていただきたいというふうに考えております。

それでは、各委員から今ご意見いただきましたけれども、それぞれ、まず補助評定に関しまして原子力災害対策放射線防護等における中核機関としての機能はa評価、それから福島復興再生への貢献につきましてもa、人材育成業務に関しましてもa、それから、評価単位全体としまして、評価単位7の全体といたしましてもAの評価とさせていただきたいと思えますが、これでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○横山部会長 ありがとうございます。

評価すべき実績、今後の課題等の決定については、事務局案のとおり取りまとめることといたします。

それでは、議題1の令和4年度業務実績に関する評価の審議は以上といたします。

続きまして、議題2になりますけれども、第1期中長期目標期間業務実績に関する評価についてです。先ほどの議題1同様、事務局で各委員の意見を機械的に取りまとめていただいたものが参考資料2、それから評価案として取りまとめたものが資料2となります。議題2では、資料2について審議し、部会の評価として取りまとめを行っていきたいと思います。それでは、引き続き事務局より、まず評価項目4についてご説明をお願いします。

○新田課長 事務局の放射線防護企画課長の新田でございます。

第1期中長期目標期間の評価、資料2ですが、1. 評価項目No. 4について説明させていただきます。こちらの第1期中長期目標期間ということで7年間の実績なので、かなりその実績項目、多彩なものがございましたので、ちょっとそこは整理させていただいてまとめさせていただいていることがございます。

放射線影響・被ばく医療研究ですけれども、この項目の評価としてはA評定というふうにまとめています。

評価すべき実績ですけれども、放射線影響研究では、発がんリスクを変動させる様々な要因解明及びリスクモデルの提示、放射線に起因する腫瘍にがん原因遺伝子の介在欠失変異があることを示し、国際的な放射線防護の関連組織にも情報提供を行ってきたことは高く評価できると。医療現場に対して、国内の患者の医療被ばくや医療従事者の職業被ばくの被ばく線量把握のための技術開発を行い、防護教育に多大な貢献をしたというふうにまとめていただいております。

次の被ばく医療研究につきましても、基礎研究から技術の実装の各段階において着実に成果を出し、ステップアップしていると。特に、内部被ばく線量評価の基盤開発としてキレート剤と放射性核種の相互作用の評価の確立、技術開発として乳幼児用の甲状腺モニタの開発、機械学習を用いた染色体自動解析のモデルの構築等について顕著な成果と認められる。また、放射線障害に対する予防・治療薬の候補薬開発、iPS細胞における変異発生の原因解明に加え、変異の少ない高品質iPS細胞の樹立に成功したことに関して、複数年にわたる研究に、顕著な成果を上げていると評価するというふうにしております。

今後の課題・改善事項等につきましても、いただいたご意見を整理させていただいております。QSTにしかできない被ばく線量評価手法の技術開発・高精度化を進めるとともに、広

く活用できる技術の普及にも期待している。そして、放射線影響や防護に関する課題の解決のために必要不可欠な研究が実施されてきており、QSTには、今後とも様々な分野及び機関と連携して中心的な役割を果たすことが期待される。変異の少ないiPS細胞の樹立に世界で初めて成功したことは、高線量被ばくによる障害に対する再生医療の発展につながる成果であり、今後臨床へつなげるための橋渡しが期待されるというふうにまとめております。

以上でございます。

○横山部会長 ありがとうございます。

それでは、委員の先生方からご質問、ご意見あれば、お願いいたします。

○細谷委員 細谷でございます。

こちらの第1期中長期目標期間の実績に対する評価部分について、放射線影響研究並びに被ばく医療研究の実績につきましては、私が書きました意見の項目を全て書いていただきまして、異存はございません。また、今後の課題としては、放射線影響や防護に関する課題の解決のために必要不可欠な研究が実施されてきていると評価しておりまして、今後も推進していただきたいということ、そして、特に高線量被ばくに対する障害に対する再生医療に関しては、長年ずっと課題であり続けているのが現状ですので、将来的に課題として残るような形で強調させていただいたものも取り入れていただきました。どうもありがとうございました。A評定で異存はございません。

○横山部会長 ありがとうございました。

では、大友委員お願いします。

○大友委員 各領域において7年間にわたって着実な成果を、顕著な成果を上げているというふうに認識いたしました。A評定でお願いいたします。

○横山部会長 ありがとうございました。

こちらのほう、中長期目標として7年間の期間の評価ということでして、本当に広い範囲の研究、それから、成果も多く上げておりまして、委員の皆様と同様、私もこの評定に異存なく、A評定とさせていただきたいというふうに思っております。一部再生医療ということで放射線影響ということのその先ということで被ばく医療研究ということになるかと思えますけれども、そのようなことにも成果を上げているということで非常に頑張っているなというようなことが見えたかと思えます。私のほうから今後の課題・改善項目等といたしまして、QSTにしかできない、技術、高精度化というものを追求していただきたいというようなことを書かせていただきました。こちらは私が言うまでもなく、QSTとして取り組んでい

かれるものと思います。

それでは、委員の先生方から、これ以上意見がないということですので、本項目の部会の評価といたしまして、A評価させていただきます。評価すべき実績、今後の課題・改善項目等の決定については、事務局案どおり取りまとめることといたします。

それでは、次の評価項目に移ります。評価項目7について事務局からご説明をお願いします。

○新田課長 事務局の放射線防護企画課長の新田です。

資料2、1ページ目の下のほうにあります、2. 評価項目No. 7、研究開発成果の普及活用、国際協力や産学官連携の推進、公的研究機関として担うべき機能でございます。こちらの評価項目単位としての評価、A評定というふうにまとめさせていただいております。

資料2の2ページからでございます。補助評定、公的研究機関として担うべき機能の中の(1)原子力災害対策・放射線防護等における中核機関としての機能です。補助評定をaというふうにしております。

評価すべき実績ですけれども、被ばく医療分野に携わる専門人材育成のための関連研修につきまして、開催回数を増加したこと、質の改善を図ることによって医療体制強化につながったというものが顕著な成果であると。また、開発した技術を改善して、実用段階にまで進展させたことも優れた成果としております。

技術支援機関、指定公共機関、基幹高度被ばく医療支援センターという、そういう役割を持つ機関として海外被ばく医療連携事業の強化、福島原発事故後の被ばく医療と線量評価に関する各種事業の推進と連携強化、被ばく医療と線量評価に係るオールジャパンの専門人材育成と、多様な人材育成業務の推進等、顕著な成果を上げてきたとしております。

その次は、JAEAの大洗事故被ばく作業員の線量評価と治療に参画した経験を踏まえ、「高度被ばく医療線量評価棟」を完成させ、国の被ばく医療の中心的・先導的な役割を果たしていくための環境を整備したことは評価できるとしております。

その次は、G7サミットをはじめとした国の重要行事において、テロ災害等の緊急時に備えて、REMAT派遣を行い、的確な対応をしたことも高く評価できるというふうにとまとめさせていただいております。

今後の課題・改善事項等でございますが、次世代リーダー育成が喫緊の課題であるということで、オールジャパンでの次世代リーダーの育成の加速に期待すると。

今後、国際的な活動、アカデミア、社会をつなぐ活動をさらに充実させることを期待す

るとしております。

福島第一原子力発電所事故の対応において、通常自然災害対応の医療資源に頼らざるを得なかったということを教訓として体制整備が進められましたが、現状でもその課題は残っており、原子力災害対策・放射線防護等における中核機関として、さらなる取組が必要であるというふうにまとめさせていただいています。

(2) の福島復興再生への貢献も補助評定a評定としています。

評価すべき実績としましては、福島原発事故における近隣住民の初期内部被ばく線量推計の推計結果は、将来の原子力災害対応に資するものであり、UNSCEAR Fukushima 2020/2021年レポートにも引用され、顕著な成果であるというふうにしていきます。

環境中に福島第一原発事故由来の²³⁵Uが検出されず影響がないことを明らかにしたこと、海底堆積土の分析によりPuに関しては原発事故由来でないこと等を評価すると。また、国際専門機関による評価の科学的な論拠となったことは、顕著な成果であるというふうにまとめております。

今後の課題・改善事項等につきまして、福島復興再生について、国際機関への協力や研究成果を出すことに加え、住民を意識した取組や社会還元となる成果にも期待する。

今後の課題として、住民や国民等、社会に向けて、より多くの科学的に正しい知見をフィードバックし、発信していくことを期待したいというふうにしていきます。

(3) の人材育成につきましても、補助評定をa評定としております。

評価すべき実績として、QSTリサーチアシスタント制度による任期付採用制度を創設いたしまして、若手人材の研究能力育成とともに効率的かつ効果的な研究開発を進め、多くの海外向け論文投稿につながり、受講した大学生及び指導教官からも高い満足度を得ていることを挙げております。

その次に、警察や消防の職員を対象とした放射線事故・テロ・災害発生時の初動対応研修等を15課程を新規開設した。社会のニーズにあった人材育成業務を着実に実施し、研修回数が当初計画を上回る実績であるというふうに評価しているというふうにまとめてございます。

今後の課題・改善事項等であります。

「知見や技術の継承」は重要な課題でありまして、これまでに放射線影響・放射線防護・被ばく医療に先導的な役割を担ってきたQSTに最も期待される役割の1つであると。今後も、大学や関係機関とより一層連携しながら、育ててきた人材が長期的に活躍できるような方

策のあり方を模索していかれることを期待する。その際、若い世代が当該分野へ定着することについて、状況の把握及び仕組みの検討、そして技術継承のため途切れのない人材配置に期待するというふうにしております。

そして、育成すべき人材の目標数を明確にし、それに沿った育成計画を立てる、もしくは育成した人材の有効活用の方策を検討すべきと考えるというふうにとまとめております。

以上です。

○横山部会長 ありがとうございます。

それでは、委員の先生方からご意見、ご質問ございましたらお願いします。

○細谷委員 細谷でございます。

この項目につきましても事前にお送りいたしました評価すべき実績や今後の課題について余すところなく記載いただきまして、内容について異存はございません。全体として、Aの評定、そして各項目についてはaの評定ということで、異存はございません。QSTがこれまで国際的な視野を持って、アカデミアや社会を繋ぐような活動をされてきているということは非常に評価できることだと思っております、今後の課題としては、より国民や住民など、社会に向けて多くの科学的に正しい知見をフィードバックしていただきたいということと、あとは、ヒアリングでも出ておりましたように、「知見と技術の継承」ということが重大な課題であり、世代交代も時間とともに進んでいきますので、そこを意識して引き続き長期にわたって活動を続けていただきたいと思っております。

以上です。

○横山部会長 ありがとうございます。

では、大友委員。

○大友委員 公的研究機関として担うべき機能に関しまして、各項目a、それから、全体でAというふうに評定させていただきました。

課題として私のほうから挙げさせていただいておりますのが、この原子力災害対策の機関としての機能に関しまして、これQST単独の課題ではないのかもしれませんが、QSTとして、基幹高度被ばく医療センター、五つの高度被ばく医療支援センターの間の連携強化も着実に進んでいて、これに関しては高く評価できます。それから、ただ、ここに書いておりますように、福島原子力発電所の事故のときに、被ばくされた汚染地域から避難されてきた方々の放射性物質汚染スクリーニング、および屋内退避区域に設置している医療機関からの入院患者さんの緊急避難ということに関して、その当時用意されていた被ばく医療

体制だけでは対応ができなくて、通常の自然災害対応のDMATであるとか災害拠点病院の仕組みに頼らざるを得なかった、それはそれで構わないんですけども、それを受けて新たに原子力災害拠点病院、それから原子力災害医療協力機関等々をつくって対応するというところでございますが、やはり残念ながら、こういった仕組みは原子力施設設置県にしかない。それ以外の県にはそういう仕組みがないという状況になっていて、やはり福島の原子力発電所のような規模の原子力災害が発生したときに、十分に現状の体制では対応できないのではないのかなというふうに考えております。ですので、ここに関してもっと広くこの対応できるような体制づくりというのを改めて検討する必要があるのではないかな。ただ、これはQSTだけの単独では難しいのかもしれませんが、これに関してQSTのほうからもその必要性を提言していくということが必要なのではないかなというふうに考えております。よろしくご検討いただければと思います。

それから、人材育成に関しましては、令和4年度のところでコメントさせていただきましたけれども、やはりその人材育成というのは、どういう能力を持った人材をどれだけの数、育成するのかという、まずその計画があつてそれに基づいて、人材育成というのは実行されるわけでありましてけれども、まずそれを策定し、それに基づいた人材育成ということ、それから先ほど繰り返しになりますけど、せっかく育成した人材をきちんと活用できるような、そういうふうな体制づくりをお願いしたいというふうに思います。

以上でございます。

○横山部会長 ありがとうございます。

それでは、私のほうから、まず公的研究機関として担うべき機能ということでa評価ということですが、こちらのほう、異存ありません。ここで一番評価すべき実績といたしまして、開催回数を増加するとともに質の改善を図ることなんですが、質の改善ってなかなか見えにくいところはあるかと思えます。どうやれば質の高いというふうに判断できるかということがあるかと思えますけれども、そちらのほう、ぜひここには書かせていただいてないですかね、評価、令和4年度のほうに書いてあるかと思えますけれども、そちらのほうをぜひご検討いただければというふうに思っております。

人材育成ということに関しまして、こちらにもやはり公的研究機関としてというところにも次世代リーダーの育成ということで挙げられております。こちらのほう、今後の課題ということで、QSTだけではなくオールジャパンでの次世代のリーダー育成ということの加速ということに期待したいというふうに思っております。

それから、福島復興再生への貢献ということに関しましても、a評定ということですが、私も異存ございません。先ほどの話とも関係してくるんですけども、原子力災害に関しましては、前回の部会の際にもQSTからご説明いただいた際におっしゃってございましたけれども、そう度々起こるものではないということで、その人材育成のところにもありますけれども、知見や技術の継承ということに関しましては、その度々起こらない、起こっては困るものであるわけなんですけれども、その中でどうやってスキルを維持していくのかというのは非常に難しい課題かなと思っております。ですので、こちらのほうは、これも難しい課題ではありますけれども、この数年で体制づくり、それから研修ということに非常に力を入れていただいたわけなんですけれども、先ほども言いましたけれども、どうやって質の高いとか継続性を持って教育なり技術を継承していくのかということが重要になってくるのかなというふうに考えております。

それから、人材育成に関しましてもこちらa評定ということですが、私も異存ございません。先ほど、大友委員もおっしゃってございましたけれども、やはりここにいろいろ皆さん、参考資料2を見ていただければ書いていただいているんですけども、うまく取りまとめたいただきましたけれども、技術継承のため、途切れのない人材配置ということが重要なのではないかなというふうに私も思っております。

以上、全体を通しましてA評定ということですが、こちらのほう、異議なしということよろしいでしょうか。

(異議なし)

○横山部会長 ありがとうございます。

それでは、評価すべき実績、今後の課題・改善事項等の決定については、事務局案のとおり取りまとめることといたします。

それでは、議題2の第1期中長期期間、業務実績に関する評価の審議に関しては以上といたします。

何か全体を通して申し上げておきたいことございますでしょうか。

(なし)

○横山部会長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、最後の議題3といたしまして、その他としておりますが、何かございますか。

(なし)

○横山部会長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、本日予定しておりました審議は全て終了いたしました。

事務局より連絡事項等をお願いいたします。

○新田課長 事務局の放射線防護企画課長の新田です。

本日はどうもありがとうございました。

今日の部会の議事録は、後日各委員にご確認いただいた上で、ホームページに公開する予定となっております。

今後の予定といたしましては、本部会での議決事項を原子力規制委員会、国立研究開発法人審議会令第五条第六項によりまして、国立研究開発法人審議会の議決というふうにさせていただきまして、それを原子力規制委員会に諮る予定としております。原子力規制委員会で決定されましたら、文部科学省及び原子力規制委員会から、8月中旬に量子科学技術研究開発機構に通知、公表の運びといたします。その結果等でまた委員等にもお知らせしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

事務局からは以上でございます。

○横山部会長 ありがとうございました。

それでは、本日の議事は全て終了いたしましたので、これで第18回量子科学技術研究開発機構部会を終了いたしたいと思います。ありがとうございました。